

# 赤十字おおやま

NO. 12

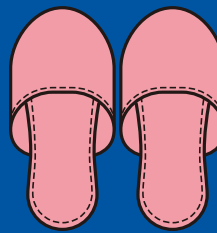
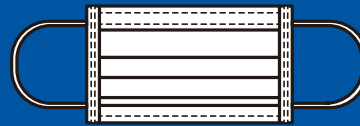
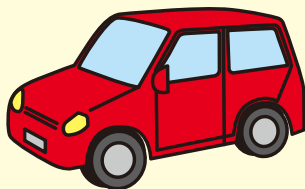
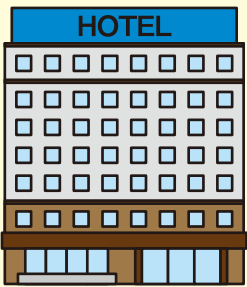
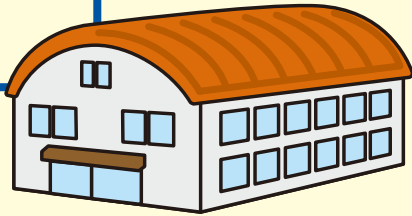
Okayama Chapter



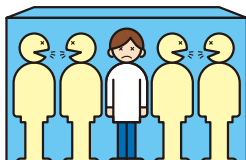
日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

## 避難生活における感染症対策

分散避難を  
心がける



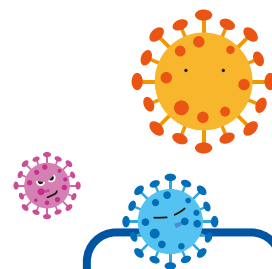
非常持出袋に  
入れておく



避ける



徹底



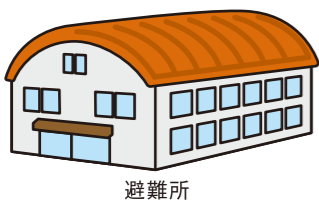
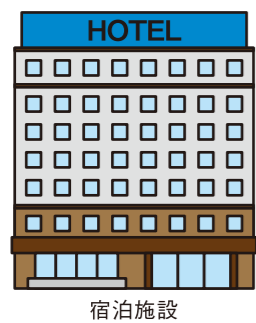
触らない



東日本大震災から10年。災害は毎年のように発生し、大きな被害をもたらしています。災害時に開設される避難所には非常に多くの人が集まり、過密状態となります。感染リスクを減らすために、次のことを確認しましょう。

## 感染症から身を守るために

### 避難先について



### 少人数・個別空間を確保できる避難先を選ぶ「分散避難」を心がける

※災害発生後に、水害による浸水や地震による津波、家屋倒壊の危険性がない場合

災害時においても、できる限り人と人が接触する機会を減らすことが大切です。

自宅を出て避難しなければならない場合、安全が確保されているのであれば、避難所だけではなく知人宅やホテルなど、できる限り密集しないよう分散避難を心がけましょう。

### 準備するもの



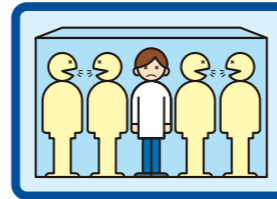
### 非常持出袋に入れておく

災害の備えとして非常持出袋の準備が大切です。感染症対策として「マスク・アルコール消毒液・体温計・スリッパなど」も追加しましょう。

### 生活で気をつけること

Point 1

密閉・密集・密接



「3密」を避ける

Point 2

手洗い・手指消毒の徹底



Point 3

むやみに目・鼻・口を触らない



感染症は、いわゆる「3密」(密閉・密集・密接)を避けること、手洗い・手指消毒を徹底することが大切です。また、人は1時間に平均23回も顔を触るという研究結果もあります。無意識に目や鼻、口を触ることでウイルスが体内に入り感染する恐れがあるので注意しましょう。



岡山県支部では「赤十字防災セミナー」を行っています

災害発生時に予想される被害や避難生活などを具体的にイメージしながら、防災・減災について学ぶプログラムに、避難生活の感染症対策の講義を追加しました。

日本赤十字社岡山県支部 事業推進課 TEL086-221-9595

## 令和3年度

## 岡山県支部では、次の活動に重点的に取り組みます。

## ■災害救護体制の整備



救援物資、救護資器材の輸送能力の向上、救護員育成の研修開催、災害時に活動するボランティアの育成など、大規模災害への備えを進めます。

## ■防災・減災の知識・技術の普及促進



赤十字防災セミナーの指導者の育成のほか、町内会・自治会、さらには企業・法人等への指導者の派遣を通じ、地域コミュニティにおける「自助」、「共助」の力の向上に取り組みます。

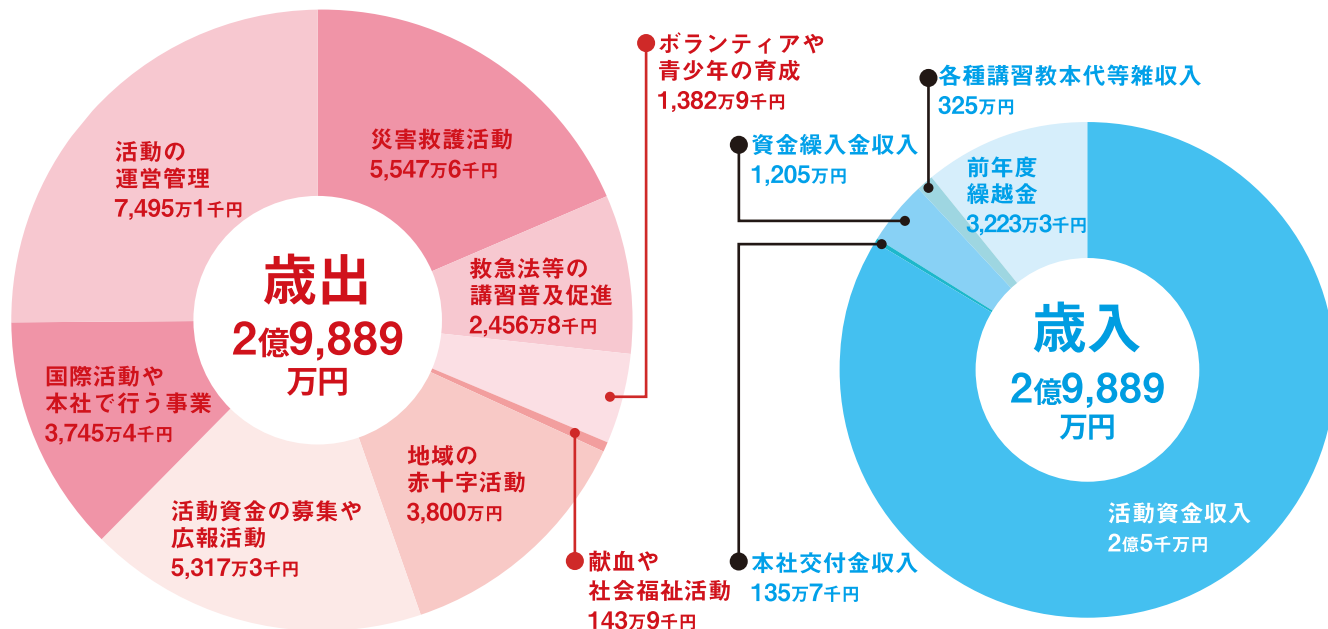
## ■地域包括ケアの推進



高齢者が自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう健康生活支援講習等を活用し、赤十字奉仕団や行政など赤十字内外との連携強化に努めます。

## 一般会計歳入歳出予算概要

岡山県支部の事業にかかる歳入歳出予算をまとめたものです。



## 「#あなたの備えがみんなの備えに」キャンペーン

実施期間：令和3年3月1日(月)～31日(水)



**ACTION! 防災・減災**

命のために今うごく

「#あなたの備えがみんなの備えに」というハッシュタグをつけて、皆さまが家庭や職場で取り組んでいる“災害への備え”をTwitterに投稿していただくキャンペーンを行います。

皆さまの防災アクションを写真や文章でTwitterに投稿していただくことで、より多くの方々が防災について考え、話し合い、行動するきっかけになり自助が共助に繋がることを期待したキャンペーンです。

皆さまからの投稿をお待ちしています。

※1投稿につき賛同企業・団体様から100円が日赤の活動資金として寄付されます。

詳しくはこちらから→

日赤 防災・減災

検索